

【気高_酒津】地域の未来づくり懇談会 開催概要

1 日時 令和6年8月6日(火) 19時00分～20時00分

2 場所 酒津地区公民館

3 出席者 地区12名 市11名【市民生活部長（協働推進課）、危機管理部長（危機管理課）、気高町総合支所長（地域振興課・産業建設課）】

4 テーマ 地域の防災力向上について

5 概要

【地元あいさつ】

今回こういった機会をいただいて、地域の防災についてしっかりと市幹部職員の方々と意見交換をしてみてはどうかということで申し込みをさせていただきました。

昨年の7月13日に集中豪雨があり、地区内でも冠水をするというような事例が発生をしており、何世帯かは床上床下浸水というようなことも発生している。三方を山に囲まれた地域であるため、いつ土砂崩れがあるかわからないような実態があり、住民が警戒をしているところである。

また、今年の元日に能登地方で地震があり、津波が来るといった情報が入ったこともあり、毎年地域で防災訓練を実施してはいるが、方法を検証していく必要があるのではないかと感じている。

【市民生活部長あいさつ】

新型コロナウイルス感染症拡大防止により、本会議は3年間中止していたが、昨年度から再開をしている。本日の議題である防災に関して、市からその回答をしっかりとお聞きしたい、という強い思いがあると考えている。本日は担当部長をはじめ担当課も出席している。1時間程度ではあるが、時間の許す限り、しっかりと御意見を賜りたいと思う。

【危機管理部長】

本日は、防災に関するテーマを地域の未来づくりという点のなかで、議論をいただくあるいは普段から思っておられることを聞かせていただけるというようなことで大変ありがたい機会と思っている。災害はいつどこで起こるかわからないことは、もう皆さんご承知のとおりで、今の時期東北では大雨で大変難儀をしている。去年はそれが本市であったというような状況である。皆さんが普段から不安に思っていることをお聞かせいただいたうえで、今後にかしていいただければというふうに思っている。

テーマ「地域の防災力向上について」

【地元(説明)】

《テーマの背景と理由》

2021年に災害対策法が改正になり、要配慮者の個別避難計画作成も努力義務化され、地域のなかでも独居老人の方や身体的に若干不自由な方もあり、すぐには避難ができない。そのため民生委員を中心に普段の見回りを実施している。このように体制を組んで進めてはいるが、実際そう

いった方々に対し具体的にどう避難をさせるかというような個別ケースを具体化していかないといけないという課題がある。

また、能登半島地震の教訓として、やはり住民実践による防災計画が必要だと言われており、行政に要望をしていくことも大切ではあるが、要望ばかりではなく自主的にどうやって避難したらいいか、危機意識をどう持つかということも必要であると考えている。

《課題（アドバイスをお願いしたいこと）》

適切な防災対策や避難訓練が被害の軽減に有効であったということが能登半島地震でも指摘されているので、普段の防災訓練等が非常に大切なことであり、意識の持ち方によっても変わってくると考えている。我々自身がどう防災計画を作るのかというようなことが重要と考えており、障がい者の方を対象とした個別避難計画、こういったものの運用を強化することが課題に感じている。さらには現在行っている防災訓練についても素人ながらにやっている訓練になるため、専門的な意見を伺いたい。

また、防災マップには地区内には一時避難場所しかない。そうすると家の中で垂直避難をすることがいいのか、土砂災害になりやすい箇所等、ハード面においても不安要素があり、アドバイスをいただきたいと考えている。

【地元】

避難所の運営設置ってということで、1人当たりの必要な平米数は2平方メートルということで、避難場所に指定されている公民館だけでは計算上まず足りないが、その場合はどのように避難をすればよいか。

【危機管理課】

避難所に行くということが全てではなく、安全な場所に行くということで捉えていただけたらと思う。その安全な場所が、例えば知人の方や親戚の方の自宅が安全なところにあるということであれば、そちらに向かわれることも避難であり、そこも浸かったりという時には、浸からない上の階に上がったということが垂直避難になる。もしも土砂災害で危ないというところであれば、危険のないところに、台風などでは、気高町コミュニティセンターを自主避難所ということで開設したりするが、そちらであれば、土砂災害では危険のないところになるし、災害の種類がどういったものかによって避難する先も変わってくる。まずは防災マップを見てこの地域がどういった特性、どういった災害に気をつけないといけないのかを知ることが重要である。

酒津地区では特に土砂災害に気を付けなければならない。そうするとやはり雨が一番であり、台風については最近気象台の精度も上がっており、2日か3日前には来ることがわかるようになっている。一番災害に遭わない方法は危険なところから逃げ出すことが一番だということをまず頭の中に入れてほしい。

津波については、やたらと外にはでない。高いところに逃げるといようなことになる。普段から有事の際どうすればいいのか考えていくことが必要である。浸水の話もあったが、地域での

特性があるため、いつもあそこのエリアは土地が低いから浸かるといった情報は地域のなかで話をしていただき、どこにどうしようということを、地域での集まりのときに、話をしていただき共有することで、意識を持ち続けることが必要と考える。

行政にはコーディネーターもいるので、困りごとがあれば相談に乗らせていただく体制がとれているので、そちらも利用してほしい。

【地元】

防災マップを見ると津波の浸水地域っていうのは実はこの図で見ると、公民館側は大丈夫となっている。本当にこれでいいのだろうか。これまでもずっと疑問に思っていた。これを信じてもいいものだろうか。

【危機管理課】

結局頼りになるのは防災マップであり、本当にどうだろうかということになれば、そうは言っても怖いからもっと高いところに逃げようというようなことは必要であるし、そうしていただいた方がいいかなと思う。

国の方で兵庫から京都沖あたりの断層を新しく発表したというような動きがあったが、本県の津波があった場合の想定を変更する必要があるということを専門家に判断してもらっている。

一方で新しい動きもあるので、それも踏まえながら、どうすべきなのか、規模はどれぐらいになるのかっていうようなことを学術的に判断していただけたらと思っている。

【地元】

企業でもBCP（事業継続計画）を策定し、準備をしていかないといけない話があるなかで、例えば何をどれだけ地域として備蓄しておかないといけないといったものはあるのか。そういった計画があると、周知するだけでもずいぶん違うという感じがするがどのようになっているのか。

【地元】

現在自主防災会として、具体的なビジョンがあって計画的にやっていることはない。自治会の方から毎年助成金があり、その範囲内で少しずつ段ボールベットや備蓄品を揃えている状況である。

【危機管理課】

行政の方でそのような（BCP）の相談にも乗らせていただいているので、どういうふうに地域の方でビジョンを作っていっていいかという進め方の部分からアドバイスもできている。まずは命を守ることが大切なので、そのためにはどうしないといけないかということから作っていくことが必要ではないか。1週間後あるいは2週間後を考えた時に寝る場所はどうかということよりも、まずは自分や家族が危険にさらされた時に、どのタイミングでどのように逃げるのかということを考えることから始めてみるのがいいのではないかなと思う。災害は時と場所

を選ばないので、時間が夜であったらどうなのかとか、昼の働き盛りの方がいないような時間帯に来たら、地域としてどのように動くかとかを一つずつ積み重ねていくことが重要だと考える。市としても備蓄品や持出品の情報提供や非常時に情報収集ができるようなアプリなどがあるので、そちらも上手に活用してほしい。

【地元】

先ほど防災アプリの紹介があったが、昨年警報があった時にアクセスが集中しており、なかなかアクセスができなくて困った。それについての改善予定はあるのだろうか。

【危機管理課】

最近はあまりそういった状況がないので、皆さんが見られていないかもしれないが、昨年末にサーバーを増強し、1年前の台風の頃に比べれば、表示されるスピードはかなり早くなっており、改善されているというのが現状である。

【地元】

去年の雨や何年か前の雨とかでも、毎年同じようなところが崩れるのだが、何年かずっと続いている場所を根本的に修繕するのは予算的に限りがあり、なかなか難しい話であることは理解しているが、なんとかならないものであろうか。

【危機管理部長】

一番いいのはハード部分の整備をして、災害に強い地域にすることが一番であるが、現実として、全てそのような危険性があるところ一度に全部取り掛かるというのはなかなかできることではなく、これは市だからということではなく、国や県でも例外ではなく、順次取りかかっているというのが実情である。ここで頻発しているということであれば、要望として出していただき、その結果、優先的に工事を実施することは考えられる。いつも同じ場所で被害があるといったところはしっかりと報告していただきたい。大変心苦しいところではあるが、一つ一つ進めているという状況であるので理解していただきたい。

【地元】

現在は情報を収集するにも様々な方法があるが、以前は各戸に防災行政無線というのがあり、同時にいろいろと情報が入っていたが、デジタル化により廃止となり、外のスピーカーを使って情報伝達をしているが、市の管轄が1ヶ所しかなく集落に設置しているいくつかの補助スピーカーを用いているが、雨で窓を閉めていると何を放送しているか聞こえない。なにかよい方法はないか。

【危機管理課】

家の中だけではなく、外におられる方もあるので、スピーカーを用いての放送は一定程度有効であると考える一方で家の中では聞こえにくいといったことがある。なにか放送があり、おかしいぞという時には、先に紹介したアプリなどで情報収集していただくのが自衛の一つと考えられる。その他の手段についてもいろいろと研究していきたいと考えている。

【地元】

危機管理課の防災コーディネーターは元消防職員だと思うが、これについても詳しく教えてほしい。

【危機管理課】

現在2名体制で大変ありがたいことに皆さん防災に関する危機意識が高まっており、相談が絶えない状況である。土日あるいは夜も講習等に出かけている。日中は係の者もいるので、いろんな防災に関する相談を受けておりますので、電話をいただいてすり合わせしていただければ、必ず行かせていただきます。いずれにしても皆さんがそういった意識を持って行動をとっていただくことについてはしっかりと対応します。

別件となるが、防災マップでは縮尺が大きくて、なかなか地域の土砂災害や浸水情報について、細かいところまで見ていただけない場合がある。インターネットで鳥取市地図情報サービスを公開しており、津波の浸水想定区域や土砂災害の警戒区域っていうようなチェックするところがあって、そこをチェックすると自宅や地域にどういった災害リスクが潜んでいるのか閲覧することができる。地域の中で皆さんの防災意識を共有する際にぜひ活用いただければと考えている。

【地元】

地区内には小さい側溝がたくさんあり、3分の1や酷い場合は半分ぐらい泥で埋まっているような場所が多い。それが普段の雨では耐えていたものが、昨年7月のような大雨になると溢れてしまい、実際床下浸水などが起こってしまった。以前は消防団が年に1回放水とかをしていたが、古い側溝で側溝の壁が崩れ始めているところや、放水することで海にゴミが出るというようなことでやめてしまった記憶があるが、ああいったものを清掃して活用することができればと思う。

【危機管理課】

道路管理者として、市や県や国にそれぞれ管轄が分かれているところだが、これもなかなかすべての対応ができないというところがあります。この場で言うのも申し訳ないのだけれども、地域の方で堆積物があるので、片付けようといった話で対応していただくのが現状かもしれない。春の一斉清掃などで、土のう袋をお配りして、そこに詰めて回収してといったころもあろうかと考える。道路課が所管していますけれども、そういったような部分で相談されてみてもよいかもしれない。

【地元】

去年の台風の時にちょうど夕方4時ごろに鳥取を通過するっていうことで、鹿野と青谷に警戒4が出ていて、気高が出ていなくてずっとおかしいなと思っていたところ、4時半頃に突然命を守る行動しなさいと言われて、一体これは何だと驚いたことがあった。こういった経緯があってあのようなことになったのか教えてほしい。

【危機管理課】

本市では各地域の土壌の雨量指数といって、土の中にどれほどの水の量があるのかというのを気象台が分析し、それによってどれほど崩れる危険性があるのか。川の水がここまで来たので、溢水する可能性がこれからの雨の具合でどうなるかみたいなことを細かく分析しながら、どこにどういう情報を出さなければいけないかということを判断しているため、一度に警戒情報を出すということはしていなかった。ところが去年突然これを全市一斉に出した。理由は気象台が特別警報といって5段階の警戒情報で最大のものを発令した。今後特別警報が発令された場合には、まずどこに行くのか。自分が今一番命を守るために取らないといけない行動は何なのかっていうことを考えるレベルのものであるということを認識いただければと思う。

【気高町総合支所長】

鳥取西工事事務所から情報提供があり、酒津漁港の防犯灯や街路灯が今年秋にLED化をするということで準備を進めている。西の防波堤の辺りの転倒防止についても改築するというようなことがあったので、この機会に情報提供をさせていただく。

【市民生活部長】

今日は、BCPや避難所、それから津波や土砂災害について、皆様から多くのご意見をいただいたありがとうございました。なお、これらについては、例えば、先ほどお配りした防災マップに、防災情報の収集方法や、確認の仕方を掲載している。今後の参考にしてほしい。

また、鳥取西工事事務所や気高総合支所産業建設課が対応すべき案件もあるので、遠慮なくご連絡いただければと思っている。

さらに、危機管理課が提案しているように、防災コーディネーターも在籍している、連絡をいただければしっかりと対応していきたいと考えている。